



## 目黒区美術館における「よみがえる画家 板倉鼎・須美子展」について

平成 27 年 10 月 10 日から 11 月 29 日まで、松戸市教育委員会の主催により松戸市立博物館で開催した「よみがえる画家 板倉鼎・須美子展」が、このたび目黒区美術館において再現されることになりました。

### 【経 緯】

松戸市の「よみがえる画家 板倉鼎・須美子展」は、3,809 人の方に観覧いただき、大きな反響を呼びました。専門家からも重要ですぐれた展覧会であるとして高い評価を受けました。目黒区美術館の学芸員も展覧会を見に来られましたが、終了後、同館においてほぼ再現する形で開催させてほしいとの相談を受け、松戸市教育委員会の特別協力により実現することになりました。

### 【基本情報】

タイトル：「よみがえる画家 板倉鼎・須美子展」

会 期：平成 29 年 4 月 8 日（土）～6 月 4 日（日）

会 場：目黒区美術館（東京都目黒区目黒 2-4-36 電話 03-3714-1201（代））

開館時間：午前 10 時～午後 6 時（入館は午後 5 時 30 分まで）

休 館 日：月曜日

観 覧 料：一般 800（600）円、高大生・65 歳以上 600（500）円、小中生以下無料

※障がいのある方は半額・その付添者 1 名は無料、（ ）内は 20 名以上の団体料金

主 催：公益財団法人目黒区芸術文化振興財団 目黒区美術館

特別協力：松戸市教育委員会

出品点数：作品約 120 点、資料約 30 点（うち松戸市教育委員会所蔵点数 約 120 点）

その他詳細については、添付の目黒区美術館プレスリリースをご参照ください。

### 【構 成】

第 I 章 板倉鼎

第 II 章 板倉須美子

第 III 章 板倉夫妻をめぐるひとびと～1920 年代パリの相貌

展覧会の主要な部分である第 I 章と第 II 章は、松戸の展覧会が再現されます。第 III 章



については、目黒区美術館が所蔵する同時代の滞欧作家たちの作品・関連資料等を中心に、新たに構成されます。

### 【印刷物】

ブックレット（小冊子）、ポスター、チラシ、チケット

※カタログは新たに作成せず、松戸市の展覧会カタログが会場で販売される予定です。

### 【松戸市による特別協力】

- ・松戸市教育委員会の所蔵作品・資料約 120 点を展覧会に貸し出します。
- ・松戸の展覧会の担当学芸員（社会教育課美術館準備室・田中典子）が監修者として企画指導、展示指導、ブックレットへの寄稿等を行ないます。

### 【ポイント】

📌 板倉鼎・須美子夫妻の回顧展が千葉県外で開催されるのは初めてのことです。松戸ゆかりのすぐれた画家が広く紹介されるまたとない機会です。

📌 松戸市が主催した展覧会が他の美術館で再現されるのも初めてのことです。しかも、出品作品・資料の大半は松戸市教育委員会の所蔵品です。松戸市の文化芸術の PR としても、絶好の機会となります。

### 【問い合わせ先】

生涯学習部社会教育課 ☎047-366-7463

## よみがえる画家 板倉 鼎・須美子展

目黒区美術館

2017年4月8日(土)～6月4日(日)

午前10時～午後6時(入館は午後5時30分まで)  
月曜休館入館料：一般 800(600)円、高大生・65歳以上 600(500)円、小中生以下 無料  
\*障がいのある方は半額・その付添者1名無料、( )内は 20名以上の団体料金

特別協力：松戸市教育委員会

主催：公益財団法人目黒区芸術文化振興財団 目黒区美術館

## 概要

1920年代、パリ。多くの日本人画家も暮らした芸術と文化の都に、一組の若く美しい日本人カップルが留学しました。板倉鼎(かねえ)・須美子夫妻です。既に画家としての素養を積んでいた夫・鼎、そして夫の手ほどきで新たに絵画に取り組んだ妻・須美子は、ともに魅力的な油彩作品を次々に描き、サロン・ドートンヌほかに出品を重ねました。しかし、過酷な運命は、鼎、ふたりの間の子どもたち、そして須美子の命を次々に奪ってゆきました。

三十歳を迎えることさえ叶わず早世した二人の存在は、広く一般に知られることはなく、さらに年月がその姿を隠してきました。しかし、近年ようやく、永遠に若いままの二人の、閃光にも似た画業は、研究が進み、あらためて知られるようになってきました。

この展覧会では、二人の残した仕事をふりかえります。そして、二人と親交の深かった岡鹿之助や伊原宇三郎をはじめ、当館所蔵の、同時代にヨーロッパ留学・滞在中の画家たちが描いた作品をあわせて展覧し、いまだ知られざる板倉夫妻を中心に、当館が開館以来の収蔵テーマのひとつとしてきた戦前期の「画家の滞欧」の興味深い一側面をご覧ください。

本展は2015年10月10日から11月29日まで、松戸市教育委員会の主催で、松戸市立博物館で開催された「よみがえる画家 板倉鼎・須美子展」をもとに、企画構成にあたった同教育委員会の田中典子さんを監修者にお迎えし、主要部分を再現します。また、同時代の滞欧作家たちの作品および関連資料等については、当館所蔵品を中心に新たに構成いたします。

## 構成

## 第1章 板倉 鼎

板倉鼎(いたくら・かねえ)は1901(明治34)年に埼玉県北葛飾郡金杉村(現在の松伏町)の医者の子に生まれ、子どものころに松戸に転居。千葉県立千葉中学校で洋画家・堀江正章に学び、画家を志した。医者を受け継いだ父との軋轢もあり、1年の浪人生活を経て東京美術学校西洋画科に入学。岡田三郎助、田辺至に指導を受け、在学中の1921(大正10)年、第3回帝展に初入選を果たした。



板倉 鼎《木影》1922  
油彩・キャンバス 80.4×116.8  
松戸市教育委員会蔵  
第4回帝展入選



板倉 鼎《土に育つ》1926  
油彩・キャンバス 116.1×79.9  
松戸市教育委員会蔵



板倉 鼎《静物》1927  
油彩・キャンバス 65.0×99.5  
松戸市教育委員会蔵

1924(大正13)年に美術学校を卒業。翌年にロシア文学者 昇曙夢(のぼり・しょむ)の長女 須美子と結婚。1926年2月、須美子とともに横浜港から海外留学に出発。アメリカ経由で目的地パリに向かう。途中、ハワイに滞在し現地の風物を描き、現地の日本人会の支援で個展を開催した。

7月パリ到着。翌年からアカデミー・ランソンでロジェ・ビシエールに師事。当初の、岡田三郎助の影響のみられる写実から、モダンで華やかな構成的な画面へと大きく作風は変化し、サロン・ドートンヌやサロン・ナシオナルに入選しアンデパンダン展やパリ日本人画家協会展にも出品。パリから送った作品で帝展にも入選するなど、着実にキャリアを積み将来を嘱望されたが、帰国を目前にした1929(昭和4)年9月、歯の治療中に敗血症となり、28歳の若さでパリに客死した。

本展では、現存するものでは最も古い中学校時代の作品をはじめ、温厚な写実による初期作から、一転して明るい色彩を用いたハワイ時代、さらに大きな変貌を遂げたパリでの作品で、知られざる板倉鼎の画業とその魅力を紹介する。

## 第II章 板倉須美子(旧姓：昇須美子)

鼎の妻・須美子は、1908(明治41)年、ロシア文学者 昇曙夢(のぼり・しょむ)の長女として東京に生まれ、文化学院創立と共に入学。1925(大正14)年、文化学院大学部を中退、歌人 与謝野寛・晶子夫妻の媒酌で、17歳で板倉鼎と結婚。文化学院では山田耕筈に音楽を学んでいたが、1927(昭和2)年、パリで鼎の手ほどきで油絵を始めると、同年のサロン・ドートンヌにはやくも初入選した。出産・育児など多忙な中で制作をつづけ、翌年にもサロン・ドートンヌで連続入選、日本人画家たちのグループ展に出品した。

1929(昭和4)年、パリで次女と夫を相次いで亡くし、鼎の友人たちの援助で、幼い長女を連れて帰国するが、翌年には長女も松戸の板倉家で病死し、失意のうちに鎌倉・稲村ガ崎の昇家に戻った。その後は再出発を期し、近所に住んでいた有島生馬に改めて絵画指導を受けるが、結核を発症し、1934(昭和9)年5月、25歳でこの世を去った。

本展では、ハワイでの思い出をナイーブな感性でとらえて、独特の魅力をみせるパリ時代の作品を中心に、後年、有島生馬の指導を受けた頃の作品を交え、美しくも短いその画業を紹介する。

## 第III章 板倉夫妻をめぐるひとびと～1920年代パリの相貌

板倉 鼎・須美子夫妻をめぐるっては、須美子の父でロシア文学者の昇曙夢、夫妻の媒酌人、歌人の与謝野寛・晶子夫妻をはじめ、文学者など多彩な人々の名が残っている。また鼎の師である堀江正章や岡田三郎助をはじめ多くの画家との関係も興味深い。本展では、こうした板倉夫妻とその周辺の人々の関係について、作品と資料で紹介する。また、岡鹿之助、伊原宇三郎など、パリ時代の板倉夫妻とのかかわりの深い周辺作家等については目黒区美術館にも多数の作品資料がある。これらを中心として、同時代のパリで制作された作品を加えて、板倉夫妻を取り巻く時代の雰囲気、それに密接なかかわりをもったさまざまな作家たちの創作と相互の関係などを考察する手掛かりとしたい。

### ●出品作品数ほか

作品 約120点(板倉鼎・須美子、岡鹿之助、伊原宇三郎ほか)

その他、資料 約30点

### ●関連イベント

会期中、関連講演会、学芸員によるギャラリートツアー、「大人のための美術カフェ」等を予定。詳細は当館ウェブサイト(www.mmat.jp)にて

4



板倉 鼎 《金魚と雲》 1928  
油彩・キャンバス 79.5×98.0  
千葉県立美術館蔵

5



板倉 鼎 《黒椅子による女》 1928  
油彩・キャンバス 91.9×91.8  
松戸市教育委員会蔵  
サロン・デザンデパンダン出品

6



板倉須美子 《午後 ベル・ホノルル 12》  
1927-28 油彩キャンバス 80.0×115.2  
松戸市教育委員会蔵

7



板倉須美子 《ベル・ホノルル 24》 1928  
油彩・キャンバス 64.6×80.5  
松戸市教育委員会蔵

## 基本情報

タイトル	よみがえる画家 板倉 鼎・須美子展
会 期	2017年4月8日(土)－6月4日(日)
会 場	目黒区美術館 (東京都目黒区目黒 2-4-36)
開館時間	午前10時－午後6時(入館は午後5時30分まで)
休 館 日	月曜日
観 覧 料	一般800(600)円、高大生・65歳以上600(500)円、小中生以下無料 ※障がいのある方は半額・その付添者1名は無料、( )内は20名以上の団体料金
特別協力	松戸市教育委員会
主 催	公益財団法人目黒区芸術文化振興財団 目黒区美術館
交通機関	JR山手線・東急目黒線・東京メトロ南北線・都営三田線＝目黒駅下車徒歩10分 東急バス＝権之助坂(目黒通り)下車徒歩5分、田道小学校入口(山手通り)下車徒歩3分 (目黒区民センター隣接)

## 広報写真

本リリース掲載の写真画像を本展広報用写真としてご提供いたします。  
図版右上の①～⑧が図版番号です。  
ご希望の方は、申込用紙(4ページ目)の内容をご確認の上、必要事項を  
お書き添えいただき、FAXでお申し込みいただくか、同内容を本展担当  
者宛メールにてお申し込みください。



板倉須美子《松の屋敷(有島生馬邸)》  
油彩・キャンバス 45.5×59.9  
松戸市教育委員会蔵

## 問い合わせ先

目黒区美術館 展覧会担当(学芸) 山田 / 広報担当(事務) 天野

〒153-0063 東京都目黒区目黒 2-4-36  
tel. 03-3714-1201(代) fax. 03-3715-9328  
e-mail: mmatoffice@mmat.jp  
http://www.mmat.jp

# よみがえる画家 板倉鼎・須美子展

宛先：目黒区美術館 〔担当〕 山田・天野 宛て  
 FAX：03-3715-9328 E-mail：mmatoffice@mmat.jp

■ 本票に必要な事項をご記入のうえ、上記宛先まで FAX でお申し込みいただくか、メールにて本票と同内容の事項とご希望の画像番号をお知らせ下さい。掲載紙・誌を1部ご寄贈くださいますようお願い申し上げます。

お申し込み日	年 月 日		
御社名			
ご担当者氏名			
住所	〒		
TEL		FAX	
E-mail			
掲示媒体名 (雑誌名など)			
メディアの形態	【紙媒体】 新聞 / 雑誌 / ミニコミ誌 / フリーペーパー / その他 ( ) 【電子媒体】 テレビ / ラジオ / WEB サイト / 携帯サイト / その他 ( )		
発行・放送予定日	年 月 日		
ご希望の画像	図版番号 ①～⑧のご希望の図版番号をご記入ください	使用条件等 *写真画像への文字のせは不可です。 *写真の画像加工(トリミング・色調整など)は不可。但し、モノクロで使用の場合は、コントラスト、ガンマ値の適宜調整を許可する場合があります。 *キャプション、クレジットは必ず明記してください。	
連絡欄			

■ お申し込み受け付け後、画像データ(JPEG)のダウンロード先を返信でお知らせいたします。お手元の環境等によりダウンロードできない場合は別途ご連絡ください。

■ 使用にあたっては、【広報用画像について】の内容をご了承いただくことが条件となります。必ずご確認くださいませようお願いします。

## 【広報用画像について】

- ・ 画像データはメールにて送付いたします。
- ・ 画像は展覧会紹介の目的のみにご使用ください。
- ・ データを第三者に渡すことは禁止いたします。
- ・ 使用後、データは破棄してください。
- ・ 展覧会の名称、期間、会場などの情報は分かりやすく掲載してください。
- ・ 画像への文字載せは不可です。
- ・ 画像使用の際は、キャプション、クレジットを明記してください。
- ・ 掲載誌(紙)は1部、当館担当者までお送りください。
- ・ Web サイトは公開後に URL をお知らせください。
- ・ 当館が掲載内容を確認できるように、掲載前に校正をお送りください。

◎ 本展を紹介してくださる媒体には、展覧会の招待券(5組10名様)を読者プレゼント用に提供いたします。ご希望の方は下記にご記入ください。

読者プレゼント用招待券を [ 希望する ・ しない ]

< 広報用画像に関する問い合わせ先 >

目黒区美術館  
 TEL.03-3714-1201 / FAX.03-3715-9328  
 展覧会担当(学芸)：山田  
 広報担当(事務)：天野

### ●板倉 鼎

1



板倉 鼎《木影》1922  
油彩・キャンバス 80.4×116.8  
松戸市教育委員会蔵  
第4回帝展入選

2



板倉 鼎《土に育つ》1926  
油彩・キャンバス 116.1×79.9  
松戸市教育委員会蔵

3



板倉 鼎《静物》1927  
油彩・キャンバス 65.0×99.5  
松戸市教育委員会蔵

4



板倉 鼎《金魚と雲》1928  
油彩・キャンバス 79.5×98.0  
千葉県立美術館蔵

5



板倉 鼎《黒椅子による女》1928  
油彩・キャンバス 91.9×91.8  
松戸市教育委員会蔵  
サロン・デザンデパンダン出品

### ●板倉 須美子

6



板倉須美子《午後 ベル・ホノルル 12》  
1927-28 油彩キャンバス 80.0×115.2  
松戸市教育委員会蔵

7



板倉須美子《ベル・ホノルル 24》1928  
油彩・キャンバス 64.6×80.5  
松戸市教育委員会蔵

8



板倉須美子《松の屋敷(有島生馬邸)》  
油彩・キャンバス 45.5×59.9  
松戸市教育委員会蔵

# よみがえる画家 板倉鼎・須美子展

Kanae & Sumiko Itakura

## 関連イベント

### ギャラリーツアー

- ① 4/15(土) 14:00～15:00
- ② 5/6(土) 14:00～15:00
- ③ 5/13(土) 14:00～15:00
- ④②は猪狩晋子(東京藝術大学)、③は山田敦雄(目黒区美術館)

### 記念レクチャー

「板倉鼎と須美子、二人のタイムカプセル」 田中典子(松戸市教育委員会)  
4/29(土・祝) 14:00～15:30  
※当日定員60名様、事前のお申し込みは不要です。

### 大人のための美術カフェ

「1920年代のパリと板倉夫妻」 山田敦雄(目黒区美術館)  
5/27(土) 14:00～15:00

※いずれの催しも無料、事前のお申し込みは不要ですが、当日の展覧会へのご入場が必要です。  
※上記内容等は変更される場合があります。詳細は当館ウェブサイト等でご確認ください。

## 入館料

一般	800(600)円	障がいのある方は半額、 その同伴者1名無料
高年生・65歳以上	600(500)円	( )内は20名以上の団体料金
小中生以下	無料	

目黒区美術館では、開館30周年を記念して区民割引を実施いたします。  
目黒区内在住、在勤、在学の方は受付で証明書類をご提示頂く  
と団体料金になります。(他の割引との併用はできません。)



開館時間：午前10時～午後6時(入館は午後5時30分まで)

休館日：月曜日

特別協力：松戸市教育委員会

主催：公益財団法人目黒区芸術文化振興財団 目黒区美術館

目黒区美術館 153-0063 目黒区目黒2-4-36  
Tel.03-3714-1201

www.mmat.jp メールマガジン募集中  
https://service.sugumail.com/mmat/



画家・板倉鼎と妻・須美子、

永遠に若いままの二人の閃光のような物語

よみがえる画家

# 板倉鼎・須美子展

Kanae & Sumiko Itakura

2017年4月8日(土) - 6月4日(日) 目黒区美術館

板倉鼎《赤衣の女》1929年 松戸市教育委員会蔵



1926年7月31日、午後4時のパリ。  
列車から降りた若く美しい二人の日本人。



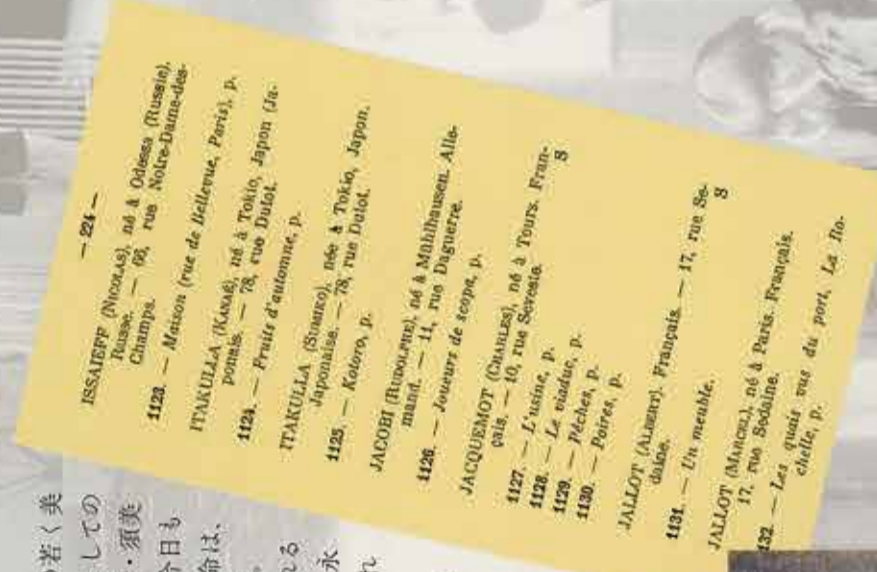
# 1927年、サロン・ドートンヌ。小さなカタログにある二人の日本人。ITAKULLA (KANAÉ) と ITAKULLA (SUMIKO) 板倉鼎と須美子…二人の物語がはじまる

1920年代、パリ。多くの日本人画家も暮らした芸術と文化の都に、一組の若く美しい日本人カップルが留学しました。板倉鼎・須美子夫妻です。既に画家としての素養を積んでいた夫・鼎、そして夫の手ほどきで新たに絵画に取り組んだ妻・須美子は、ともに魅力的な油彩作品を次々に描き、多くの日本人画家が出品し、今日も続く展覧会、サロン・ドートンヌはやかに出品を重ねました。しかし、過酷な運命は、鼎、ふたりの間の子ともたち、そして須美子の命を次々に奪ってゆきました。三十歳を迎えることさえ叶わず早世した二人の存在は、広く一般に知られることはなく、長い年月がその姿を隠してきました。しかし、近年ようやく、永遠に若いままの二人の、閃光にも似た画業は、研究が進み、あらためて知られるようになってきました。

この展覧会では、2015年に開催された二人の初めての回顧展「よみがえる画家 板倉鼎・須美子展」(松戸市教育委員会主催)をもとに、二人の残した仕事をふりかえります。また、二人と親交の深かった岡鹿之助や伊原宇三郎をはじめ、当館所蔵の、同時代にヨーロッパ留学・滞在中の画家たちが描いた作品をあわせて展覧し、いまだ知られざる板倉夫妻の作品を中心に、当館が岡鹿以来の取蔵テーマのひとつとしてきた戦前期の「画家の滞欧」の興味深い一側面をご覧ください。



板倉鼎《静物》1927年 キャンバス、油彩



1927年  
サロン・ドートンヌ・カタログより



板倉鼎《風景》1928年 キャンバス、油彩

板倉鼎は1901(明治34)年に埼玉県北葛飾郡金杉村(現在の松伏町)の医者の家に生まれました。千葉県立千葉中学校で洋画家・堀江正章に学び、画家を志すようになりました。その後、1年浪人して東京美術学校(現在の東京藝術大学)西洋画科に入学。岡田三郎助や田辺至の指導を受け、在学中の1921(大正10)年には早くも第3回帝展に初入選を果たしました。

1924(大正13)年に美術学校を卒業すると、翌年に歌人・与謝野 實・晶子夫妻の媒約で、昇須美子と結婚。1926年2月、須美子とともに横浜港から海外留学に出发し、アメリカ経由で目的の地パリに向かい、途中、ハワイ滞在中には現地の風物を描き、日本人会の支援で個展を開催しています。その後、東海岸から大西洋を渡り、7月にパリに到着。翌年からアカデミー・ランゾンでロジェ・ビジエールに師事しました。やがて、それまでの師・岡田三郎助の影響のみられる濃厚な写実から、モダニズムやサロンの成的な画面へと大きく作風を変え、サロン・ドートンヌやサロンのナショナルに入選。アンデパンダン展やパリ日本人画家協会展にも出品、パリから送った作品で帝展にも再び入選するなど、将来を有望視されるようになりました。しかし、帰国予定を目前にした1929(昭和4)年9月、癌の治療中に敗血症となり、惜しくも28歳の若さでパリに客死しました。



1. 板倉鼎/昇須美子《午後 ベル・ノルマル13》1927年-1928年頃 キャンバス、油彩  
2. 板倉鼎/昇須美子《松の屋敷》不詳 キャンバス、油彩  
3. 板倉鼎《水影》1922年 キャンバス、油彩  
4. 板倉鼎《金魚》1928年5月頃 キャンバス、油彩

※いずれも松戸市教育委員会蔵



一方、鼎の妻となった昇須美子は、1908(明治41)年、ロシア文学者・昇曙夢(1878-1958)の長女として東京に生まれました。文化学院の創立と同時に入学し、山田耕作に師事し音楽を学びますが、1925(大正14)年に中退し、17歳で板倉鼎と結婚。須美子が絵画制作を始めたのは、1927(昭和2)年にパリで鼎の手ほどきを受けてからです。ハワイ時代の思い出をモチーフにした感性でとらえた作品で、同年のサロン・ドートンヌに早くも初入選を果たしています。この年12月には長女一を出産、育児に多忙な中でも制作をつづけ、翌年にもサロン・ドートンヌで連続入選を果たしました。しかし、1929(昭和4)年には二女二三を得たものの一月あまりで亡くし、同じ9月には夫鼎も失うこととなります。この年、鼎の友人たちの援助で、幼い長女一を連れて帰国した須美子でしたが、翌年にはさらにその一も病気で失い、失意のうちに鎌倉・稲村岬の界家に戻りました。その後は再出発を期して、近所に住んでいた有島生馬に改めて絵画指導を受け、絵画への意欲を持ち続けましたが、結核を発症し、1934(昭和9)年5月、25歳でこの世を去りました。

\*

本展では、海外で過ごした短期間のうちに大きな変化をとげた鼎と、その鼎の手ほどきで、やはり短期間に独特の魅力あふれる作品を生み出した須美子の、知られざる画業を多くの作品でご覧いただけます。また、二人をめぐっては、須美子の父・昇曙夢や媒酌人の与謝野 實・晶子夫妻をはじめ、須美子の父・昇曙夢や媒酌人の与謝野 實・晶子の師である堀江正章や岡田三郎助、パリ時代の鼎の友人となり、鼎の没後は須美子の帰国や遺作展の開催を助けた岡鹿之助、伊原宇三郎など同時代の多くの画家との関係にも興味深いものがあります。本展では、こうした人々と板倉夫妻の関係についても作品と資料をご紹介します。